

2019年3月25日

投資者の皆様へ

T & Dアセットマネジメント株式会社

「野村エマージング債券投信(通貨・代替通貨選択型)」の基準価額の下落について

拝啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。
 平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

「野村エマージング債券投信(通貨・代替通貨選択型)」の基準価額の下落につきまして、下記の通りご案内いたします。

今後ともお引き立てを賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

敬具

記

「野村エマージング債券投信(通貨・代替通貨選択型)」の基準価額

ファンド名	2019年 3月22日 基準価額(円)	2019年 3月25日 基準価額(円)	騰落幅 (円)	騰落率 (%)
トルコリラコース(毎月分配型)	3,398	3,228	170	5.00
トルコリラコース(年2回決算型)	12,336	11,703	633	5.13

(騰落率については小数点第3位四捨五入)

- 文中に引用した各インデックス(指数)の商標、著作権、知的財産権およびその他一切の権利は各インデックスの算出元に帰属します。また各インデックスの算出元は、インデックスの内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- JPモルガンEMBIグローバル・ディバースファイド
 指数に関する一切の知的財産権とその他一切の権利はJPモルガン社に帰属しております。JPモルガン社は、指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。JPモルガン社は指数の正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負うものではありません。

◆ 市況情報

	2019年3月21日	2019年3月22日	騰落率 (%)
米ドル建てエマージング国債インデックス (JPモルガン EMBI グローバル・ディバースィ ファイド)	877.64	876.14	0.17

(小数点第 3 位四捨五入)

海外の市場については基準価額への反映を考慮し、3月21日と3月22日と比較しています。

	2019年3月21日	2019年3月22日	騰落率 (%)
トルコリラ(対円レート)	20.27	19.23	5.12

(小数点第 3 位四捨五入)

海外の市場については基準価額への反映を考慮し、3月21日と3月22日と比較しています。

為替レートはロンドン時間午後 4 時のレート(WM ロイターレート、単位は円)。

出所:JP モルガン社、ブルームバーグ

エマージング債券市場の足許の市場動向

米国では、景気後退を示唆すると言われている長短金利の逆転現象がおり、景気の先行きに対する警戒感が強まったことなどを背景に、2019年3月21日から3月22日にかけて米国債券市場が上昇しました。こうした市場情勢の中、エマージング債券市場の代表的な指数である JP モルガン EMBI グローバル・ディバースィファイドは約 0.17% 下落し、米国債に対するスプレッド(利回り格差)は拡大しました。

為替市場(トルコリラ)の足許の市場動向

2019年3月22日の外国為替市場では、トルコリラが主要通貨に対して大きく売られる展開となりました。トルコの主要な輸出先であるドイツの景気悪化に対する懸念や、トルコ中央銀行が21日に発表した週間統計で個人や企業がトルコリラを売って米ドルを買う動きを加速させたことが明らかとなったことなどがトルコリラの下落要因となりました。また、21日にイスラエルが1967年の第三次中東戦争で占領したゴラン高原について同国の主権を認めるとトランプ米大統領が表明したことに対して、イスラエルと対立するトルコのエルドアン大統領が危機感を示したことなど、緊迫化が想定される中東情勢や対米関係悪化に対する警戒感もトルコリラ売りの要因となりました。

今後の見通し

エマージング諸国経済は、国・地域によりばらつきはあるものの、緩やかな成長が持続する見通しです。対外収支の状況など、エマージング諸国のファンダメンタルズ(経済の基礎的条件)は改善している国もあり、米ドル高の影響は総じて弱まっていると考えられます。また、米国の景気減速などから利上げペースが鈍化するとの見方もあり、米国の金利上昇に対するリスクは緩和することも考えられます。ただし、過去に比べてファンダメンタルズは改善し、米ドルに対して割安な通貨もあるとはいえ、当面、エマージング債券市場を取り巻く環境は不安定な状況が続く可能性があります。引き続き、ブラジルやメキシコの新政権の経済政策、米金利と米ドルの動向、貿易摩擦の影響などによって、エマージング債券市場の価格変動性が高まることも想定されます。こうした投資環境下、引き続き各国経済、主要エマージング諸国の経済・金融政策動向、米金利の状況などを注視しながら、ファンダメンタルズ重視の長期投資を推進していく方針です。

以上

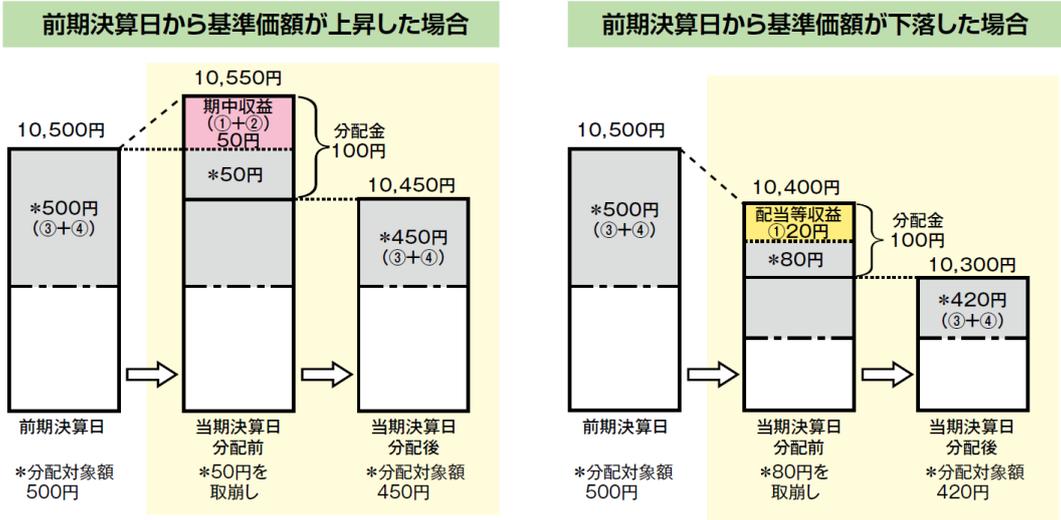
収益分配金に関する留意事項

●分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。



●分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合

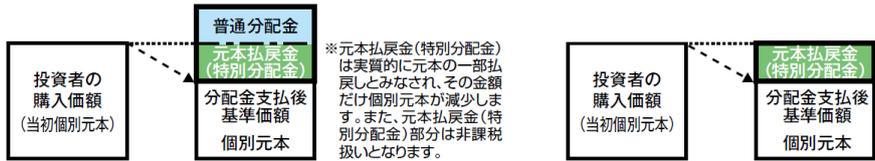


(注) 分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。

※上記はイメージであり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではありませんのでご注意ください。

●投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりがいさかった場合も同様です。

分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合 **分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合**



普通分配金：個別元本(投資者のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。
 元本払戻金(特別分配金)：個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者の個別元本は、元本払戻金(特別分配金)の額だけ減少します。

普通分配金に対する課税については、投資信託説明書(交付目論見書)の「手続・手数料等」の「ファンドの費用・税金」をご参照ください。

当資料はT & Dアセットマネジメントが投資者の皆様への情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づいて作成したのですが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また投資信託の取得をご希望の場合は、下記のご留意事項を必ずご確認ください、ご自身でご判断ください。

ファンドのお申込みに際してのご留意事項

以下のリスクは、投資信託説明書(交付目論見書)に記載されているリスクを要約したものです。詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)でご確認ください。

ファンドの基準価額は、投資を行っている有価証券等の値動きによる影響を受けますが、これらの運用による損益は全て投資者に帰属します。したがって、ファンドは投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。なお、ファンドは預貯金とは異なります。

ファンドの基準価額の変動要因となる主なリスクについて

<各ファンド(マネープールファンドを除く)>

「債券価格変動リスク」「カントリーリスク」「為替変動リスク」「金価格変動リスク」

<マネープールファンド>

「債券価格変動リスク」

基準価額の変動要因(リスク)は、上記に限定されるものではありません。

その他の留意点

ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。

為替取引に関する留意点

ファンドにおける為替取引は、主に為替予約取引を活用しますが、通貨取引に対する規制等の理由から、当該通貨での為替予約取引を行うことが難しい一部の新興国通貨については、直物為替先渡取引(NDF取引)を活用します。NDF取引を用いた為替取引では、通常の為替予約取引と比べ、為替市場、金利市場の影響により、NDFの取引価格から想定される金利(NDF想定金利)が、取引時点における当該通貨の短期金利水準から、大きく乖離する場合があります。その場合、為替取引によるプレミアムの減少や為替取引によるコストの発生により、ファンドのパフォーマンスに影響を与える場合があります。

NDF(ノン・デリバラブル・フォワード)取引とは

- ・投資対象通貨を用いた受渡を行わず、主に米ドル等による差金決済のみを行う取引をいいます。
- ・新興国通貨等への取引ニーズの高まりと共に、NDF取引が活用されるようになりました。

有価証券への投資や為替取引等ファンドにかかる取引にあたっては、取引の相手先の倒産等により契約が不履行になる可能性があります。

ファンドは、預貯金や保険契約と異なり、預金保険・貯金保険・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関でご購入いただいた場合、投資者保護基金の支払対象とはなりません。

